

前奏: 「王が来たりと星が示して」(F. ベータース)

招詞: 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハ3:16a)

讚美歌 258「まきびとひつじを」

交読詩編 97:1-6

01 主こそ王。

全地よ、喜び躍れ。

多くの鳥々よ、喜び祝え。

02 密雲と濃霧が主の周りに立ちこめ

正しい裁きが王座の基をなす。

03 火は御前を進み

周りの敵を焼き滅ぼす。

04 稲妻は世界を照らし出し

地はそれを見て、身もだえし

05 山々は蠟のように溶ける

主の御前に、全地の主の御前に。

06 天は主の正しさを告げ知らせ

すべての民はその栄光を仰ぎ見る。

朗読聖書①ミカ書 5:1-3 ◆終わりの日の約束

01 エフラタのベツレヘムよ/お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために/イスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。

02 まことに、主は彼らを捨ておかれる/産婦が子を産むときまで。そのとき、彼の兄弟の残りの者は/イスラエルの子らのもとに帰って来る。

03 彼は立って、群れを養う/主の力、神である主の御名の威厳をもって。彼らは安らかに住まう。今や、彼は大いなる者となり/その力が地の果てに及ぶからだ。

朗読聖書②ルカによる福音書 2:8-20

08 その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。9すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。10天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。11今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。12あなたがたは、布にくるまって飼料桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」13すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

14「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

15 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。16そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼料桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。17その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。18聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思った。19しかし、マリヤはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。20羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

祈禱

この世の贖い主にして、永遠の救い主、真の光なる御子イエス・キリストの父の御神さま、聖名を褒め称え、賛美致します。

主の年2024年がこれまで守られ、導かれ、御救いの中で新たな命と共に再び主なる神の御前で礼拝をお献げする時を与えられ感謝致します。

憐れみ深き父なる御神さま、あなたは愛する御子イエスを、この世に送り、母マリヤを通して、救いの御言葉をこの世に与え、遠き人々にも、また近き人々にも、また重ねて私たちにも、与えてくださいました。この大いなる恵みに感謝致します。今、夫々の場において、主の御招きに応え、この時を迎えています。主を礼拝する一人ひとりを豊かに導いてください。

主なる神は弱きに力を与え、新たな道を備えてくださいましたことを覚えます。しかし、思い起こせば、なお深く主の御心から遠くあったことも覚えます。弱さの自覚と共に、ここに罪を告白し、悔い改めを申し上げます。どうか主にある心を再び立ち上がらせてください。あなたと共にある心を、湧き起こさせてください。

今この時にも、主なる神への献身の思いを起し、本日洗礼を受ける方、転入会される方々と共に、救い主なる御子イエスを、“真の人にして真の生ける神”と告白します。なお御霊の導きと御助けを願います。また、この世の様々な出来事は、この時にあっても、主の御心から離れていることを否認しません。主の真理の内に招かれた私たちは、神無きような世相の動きにある中にあっても、主の御業の確かさ、また偉大さを受け止め、世界の平和、日本の平和の為にも祈ります。気候変動の激しい中で、様々な感染症の影響も懸念される中、年初めに起こった災害から地球規模における自然災害と共に、世界に及んで人々の疲弊した心が深く浮かびます。戦争の暗い歴史を通し、今もなお世界では戦乱や混乱が続いています。重ねて情勢も様々に厳しさを増しています。多くの人々が不安や苦しみ、また悲しみの中にもあります。どうかこの特別なる日、御子のご降誕を覚え、感謝と悔い改めをもって礼拝するこの時、主の慰めと癒しが、一人ひとりの上に豊かにありますように。またどうか。一日も早く混乱が収まり、共に主を見あげて歩む日が来ますように。どの世界、地域社会にあっても衣食住の悩みは尽きません。また、殺伐とした社会と人間の関わりの中で、悲惨な出来事が絶えません。自ら命を絶つ人々もあり、無差別的な殺傷事件も絶えません。私たちキリストに従いゆく者として、為すべき務めが為せますように。また心にありつつも、この場に集えない人々、様々な想いにある人々が、命の源なる復活の主の招かれ、また導かれ、救いの御言葉と共に、新たに生きる力が与えられますように。

時を同じくして礼拝を献げている全世界のキリスト教会の働きが豊かに用いられますように。宣教の困難な中にあっても主を信じて新たに歩む志が与えられますように主の御助けを願います。

これより牧者を通して告げられる主の御言葉が、御霊の導きの上にありますように。聴く私たちが新たな命とともに、ここから遣わされていきますように。

真の光、命の源なる救い主、復活の主に希う諸教会の祈り、信仰の共の祈りに合わせ、御子イエス・キリストの聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

洗礼式(小野美和子)

転入会式(塩見靖国・塩見由利子)

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主(σωτήρ)がお生まれになった。(11節)」

この喜ばしい知らせを初めて聞いたのは、“野宿をしながら夜通し羊の群れの番をしていた羊飼いたちであった(8節)”と聖書は伝えています。クリスマスの出来事は、天使によって真っ先に羊飼いたちに届けられました。天使が羊飼いたちに告げたメッセージを共に聞きたいと思います。

私たちは「天使」と聞くと、どのようなイメージが浮かぶでしょうか？ “幼い可愛らしい子供のような姿で、背中に羽があって飛びまわっている”、そのようなイメージでしょうか？ 辞書で『天使』という言葉を引きくと、“神からの使者”と書かれていました。“神の言葉を預かって人に伝えるメッセンジャーとして働くのが天使の役割”であるようです。或る学者は、天使のことを“神からの愛と光の霊的なエネルギーだ”と言います。今日の聖書の箇所にも、「主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らした(9節)」とあることから、その様な発想に至ったのかもしれませんが。天使が神からの愛と光の霊的なエネルギーであるとすれば、天使は決して聖書の時代だけに顕れるのではなく、今の私たちにも顕されることなのでしょう。また『天使』について、このように言う人もいます。“天使は時間的空間的な限界を知らない、時空を超える、天使はあらゆる時代を超えて、あらゆる距離を超えて、どのような障害があっても乗り越えて、飛び越えて、私たちの所にやって来る。神のメッセージを伝えるためには、私たちが何時何処にいようと、どのような状況にあったとしても、私たちが、神さまのことを考えていない、信じていない、それでも一切関係なく、突然近づいてきて、神のメッセージを伝える”これが『天使』です。時空を超えて、あらゆる障害を乗り越えて、あるとき突然近づいてくる、そのようなことが本当にあるかと思う方もおられるかもしれません。しかし、私たちも経験していることがあります。例えば、もうずいぶん前に誰かから言われた言葉が今も忘れられない、今もその言葉に励まされている、あるいは悩まされ囚われている、そういうことはどなたにでもあることだと思います。さらに言えば、聖書の言葉は何千年も前に語られたものです。それでも今の私たちの魂に突き刺さってくる、心を捉えて生き方も変えてしまう、そういうことはしばしば起こります。聖書に記されているのが神の言葉です。神はこの世にあるあらゆるものを、あらゆることを天使として用いられます。ここに天使を見たことのある方はいないかもしれませんが、私たちは既に、この礼拝堂の椅子に腰を掛けているのですから、もうどこかで天使に会っているはずで、2000年前に羊飼いたちに神のメッセージを伝えた天使は、実は今日もここにいて神の御意思を、救いの御計画を伝えるために、今、私たちにも近づいているのです。

「主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた(9節)」と書かれてあります。クリスマスの出来事は天使と出会った羊飼いたちの恐れから始まりました。神が私たちに接近して来られる時、私たちも、不安や恐れを覚えることがあるでしょう。礼拝に出席するように誘われた時、初めて教会に来た時、洗礼を受けようと思った時、誰でも不安を覚えるのではないのでしょうか。それはなぜでしょう？ 神が自分の人生に接近してくる、神が私たちの人生に介入されることで、それまでの人生や生き方が中断されたり、変更を迫られたりするからと考えるからです。古きものとの決別が迫られる、生きることに新しさが加えられることは私たちを不安にします。しかし、恐れることはありません。天使が言う通りです。中断や

変更は、決して私たちにとって不利益なことではないのです。むしろ、私たちの人生はある時に、神によって中断させられる必要があります。中断することによって、何が本当に大切なことなのか、何を優先するべきかがわかるからです。神の接近や介入による人生の中断は、私たちのこれまでの人生を吟味する時となって、新たな思いで神の下に立ち返り、再出発する良い機会になり得るものです。或る学者は、“キリスト教の礼拝を残りの生活の中断”と呼びました。“礼拝は日常の全ての思い煩いを中断して、聖書の言葉にできる限り長く留まることである”と言います。私たちが生活を中断することは、犯し続けている間違いや罪を中断するという意味を含んでいます。キリストの真理と福音による中断の中に、新しい世界と新しい約束があります。事実、天使のメッセージは「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。(11節)」という大きな喜びの知らせでした。

世界中で誰よりも真っ先にキリストの誕生というメッセージを聞いた羊飼いたちはどのような人たちだったのでしょうか。この時代の羊飼いは権力や特権から最も遠い社会の底辺に置かれていた存在であったと言われていました。羊飼いというのは羊の群れと一緒に餌場を求めて移動する生活です。自分という存在を知られていなかった人たちであったようです。彼らはユダヤ人でありながらも、安息日の礼拝を守ることはできなかったでしょう。人からだけでなく、神からも知られていない、神の言葉から離れた祝福の中に置かれていない、もし、神と出会ったなら、“私は裁かれる”と思っていたのではないかと思います。しかし神は羊飼いたちを知っていました。それどころか誰よりも真っ先に孤独であった羊飼いたちに“キリストの誕生はあなた方のためだ”と伝えられたのです。羊飼いたちにとっては、あまりにも突然の出来事です。何の用意も心構えもありません。しかし、神との出会いというのはいつも突然です。神は私たちの都合など関係なしに接近され、突然語り出されます。私たちの準備ができていないかは問題にされません。神は一方的に、「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」と告げるのです。しかし、私たち人間は、言われただけで“はい、分かりました”とはなりません。神がそのような私たちの為に、「しるし」を備えてくださいました。「布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子(12節)」、真っ暗な馬小屋に置かれた弱い生まれたばかりの「乳飲み子」こそが、羊飼いたちへの、私たちへの大きな喜びの「しるし」だというのであります。

聖書の言う「しるし」というのは、“間もなく起こる奇跡の前兆、前触れを示す言葉”です。分かり易く言えば、“今、目に見えているものを通して、これから起こる、今はまだ目に見えないものが見えるようになる”、これが「しるし」という言葉の意味です。「飼葉桶の中に寝ている乳飲み子」は、他の「乳飲み子」と何の変りもない赤ちゃんです。しかし、その赤ちゃんを見て、“神が救い主を送って下さった出来事を見て取ることができる、神の啓示を見る”、それが「しるし」というものです。「飼葉桶の中に」布にくるまって寝かされている「乳飲み子」は、天の父が私たちのために降りてきてくださった驚くべき「しるし」なのであります。

天使は大軍を引き連れてきます。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。(14節)」

この地上のどこに平和が実現されているのでしょうか。むしろ平和は揺り動かされ、奪われ、脅かされ続けています。しかし、私たちの主は、「地には平和」というこの言葉を実現させるために、今日も私たちを教会へと集め

てください、御言葉を語り聞かせてくださっているのです。「御心に適う人にあれ」とは、いったいどのような人のことでしょうか。何か、必要な条件をクリアした人のことでしょうか。誰が見ても目を引くような秀でたものを持って人でしょうか。もしそうであるなら、天使の歌声が羊飼いたちの心を捉えることはなかったと思います。「御心に適う人」とは、神が全く自由な恵みによって選び出される人です。神の選びは一方的で突然です。

羊飼いは、「神から離れている、見放されていると思っていた人たち」でした。知識もない、相応しさもない、しかし、神はこの羊飼いたちを用います。「乳飲み子」を探し当てた羊飼いたちが、この地上で最初に福音を宣べ伝える者になったのです。羊飼いたちは変えられたのです。羊飼いたちが確かに変えられたことを示しているのは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか(15節)」、この言葉です。

彼らが野宿をしていた場所からベツレヘムまでは、距離的にはそれ程離れていたわけではありません。しかし、心理的に大きな隔てがありました。差別を受けていた羊飼いたちは暗闇に閉じこもっていたのでしょう。私たちにも、物理的に近くても内面的にすごく遠いと感じることはあります。けれども、羊飼いたちは勇気を持って一歩踏み出しました。天使のメッセージを聞いて、信じて、生活を中断して、仕事を中断して、ベツレヘムに向かったのです。

私たちの神はあらゆる手段をもって私たちを立ち返らせるために、私たちを取り戻すために、私たちに接近することをためらわれません。私たちが自分で気づいて、神の語り掛け、働きかけに応答するようになるまで忍耐強くメッセージを送り続けておられます。いろいろなものを、色々な人、色々な出来事を、御使いとして用いながら接近してくださるのであります。この世界のどこにいても、どれほど暗い場所にでも、天使を遣わして語りかけてくださるのです。

神の呼びかけに気づいたなら、これはもしかして天使の接近か？ ということを感じたなら、神さまが示してくださった場所に向かっていただきたいのです。そこには必ず「しるし」があるはずです。羊飼いたちも、遠く離れていたはずの神が御子を地上に遣わされたことで、直ぐ傍に、いつも一緒に、神さまがいてくださることを確信できるようになったのです。これが、『天使のメッセージ』、クリスマスの出来事です。

羊飼いたちは「しるし」を探し当てた事で、いつも神が共にいて下さることを感謝して生きることが出来るようになりました。暗闇の中にあるものをクリスマスの光で照らして神を讃える者へと変えられるのです。しかし、「帰って行った(20節)」と書かれています。彼らは救い主を見ましたが、何もない羊飼いのままです。羊飼いたちが帰った場所は厳しい現実の生活です。それでも彼の生き方、人生は大きく変えられました。心に平和が与えられたのです。神を知らない生活から、神と共に生きる生活へと変えられるということは、「平和を得る」ということです。いつも神が御言葉を与えて人生を導いて下さるようになる、試練の時、苦難の時には、私たちの重荷を神がともに担い、痛みを知っていてくださるお方が一緒に歩んでくださいます。

クリスマスは“全ての人の命が一切の分け隔てなく祝福されている”ことを伝えるメッセージです。羊飼いたちは私たちと無関係ではありません。今日、この教会で、クリスマスの出来事と出逢った私たちも、夫々の家に帰って行きます。そこには前と変わらない日常が待っていることでしょうか。

し、礼拝から夫々の場へ帰っていくことは、同時に、神によって夫々の場に遣わされていくことです。神はもう既に、私たちに近づいてきてくださって触れてくださっています。私たち一人ひとりがクリスマスの出来事を人々に知らせて、地に平和をもたらすために働く使者とされています。礼拝のたびごとに、“平和の使者として行きなさい”と言って下さる主の言葉に、私たちは生涯従い行くのです。今日、天使のメッセージを聞いた私たちも向きを変えて、神が与えてくださった偉大な救いに向かって一歩を踏み出しましょう。お祈りを致します。

聖なる神、あなたがこの年も私たちにクリスマスをお供えとてくださった事を心から感謝致します。今日お生まれになった「乳飲み子」を“救い主”と告白できます幸を覚えます。あなたは、あらゆる形を取って、私たちを大きな喜びへと招いてくださいます。主よ、私たちが、あなたの招きに応えることができますように。恐れることなく、あなたの示された救いの道を歩む者としてください。この世に、あなたのご栄光を現すために、私たちを御使いとして用いてください。

私たちの救い主、イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌 261「もろびとこぞりて」

献金・感謝・主の祈り(長原光)

私たちの救い主、主イエス・キリストの父なる御神さま、あなたは今朝、この礼拝堂において、またズーム配信において、御子イエス・キリストのご降誕を祝うクリスマスの礼拝に私たちを呼び集めてくださりまして真に感謝致します。

あなたは御子イエス・キリストを旧約聖書の福音と律法の成就の徴として、またあなたの“御言葉が肉体となった”という現実において、私たちに恵みを示してくださいました。真に“あなたは恵み深く、その慈しみはとこしえに耐えることがない”と言われる通りです。しかし、私たちはこの地上の歩みにおいて罪の中におります。私たちは己を自分自身の神として、その生き方を変えることができません。この最も深い私たちの闇の中にあなたは独り子イエス・キリストを飼い葉桶の幼子として、このもっとも深い闇の中に置いてくださいました。驢馬が会話を受ける主人を知るように、私たちがあなたの御子が・幼子が飼い葉桶にいるということを知って、あなたの御言葉を心に刻みつけ、あなたの御旨に従う新しい生き方へと変えさせてください。どうか、あなたが私たちのしばしの地上の歩みを導いて、あなたの子供として相応しいものとなさしめてください。

今朝は小野美和子姉妹に洗礼をお授けくださって感謝致します。どうか姉妹があなたに終生変わらない信仰を置くことができますように。また、塩見靖国兄弟、塩見由利子姉妹を、この私たちの群れに加えてくださって感謝いたします。どうかあなたの教会があなたの福音のために専心することが出来ますように。新しく加えられた三名の方と共に私たちをどうかお導きください。

私たちは多くのものを与えられております。その中から一部を今、私たちの献身の徴として、あなたの御前に御献げ致します。どうかあなたの教会として、あなたの業にお使いくださいますよう。

イエスさまが地上の歩みをなさっていた時にお教えてくださった主の祈りを以て、感謝と祝福に満ちた1週間を始めさせてください。「主の祈り」…アーメン。

讚美歌：89「共にいてください」

派遣・祝福：主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告：(1)イブ礼拝案内、(2)クリスマス祝会案内 (3)祝会后緊急管理委員会
開催告知&29日会堂周辺清掃案内

後奏：「高き天より われは来たりぬ」 (J.S.バッハ)